

**日常の経験知で仮説を立て、
学内にあるデータを検証する**



**-データを活用した
予防的・開発的學生支援を
はじめてみませんか？-**

高知大学 大学教育創造センター

杉田 郁代

isugita@kochi-u.ac.jp

本日の到達目標

日常の経験知からデータを
検証する手法について習得し、

習得したことを
自分の

学生支援に生かすことができる

~MEMO~

予防的・開発的學生支援とは？

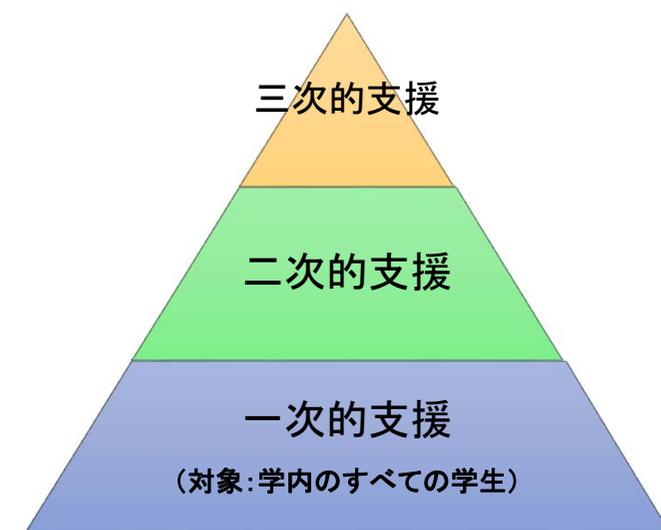
予防的・開発的學生支援とは、
学校心理学の三層モデル（石隈，1997）を學生支援に応用した
支援モデルです。一次支援対象者は、学内のすべての學生です。

	特徴
実施主体	特別な訓練を受けた者ではなく、ごく一般の教職員
場 所	専門機関ではなく、大学の構内が中心
場 面	正課と準正課活動、正課外活動などの日常場面
対 象	特別な配慮を必要とする學生ではなく、普通の學生生活を送っている學生が対象
目 的	個別の問題ではなく、大学生としての発達課題の達成を支援する
姿 勢	教職員のリーダーシップと社会人モデル意識が必要

栗原（2003）を参考に作成₄

<開発的學生支援モデル構造>

	内 容
主 体	一般の教職員
対 象	学内のすべての学生
展開領域	学内のすべての教育活動
目 的	成長発達の促進
指導上の留意点	1) 社会的役割を習得させる 2) 効果的な対処行動を習得させる 3) 発達課題を習得させる



栗原 (2003) を参考に作成

学内にある予防的・開発的學生支援のリソース

例えば、

正課外活動としてはクラブ・サークル活動やボランティア。

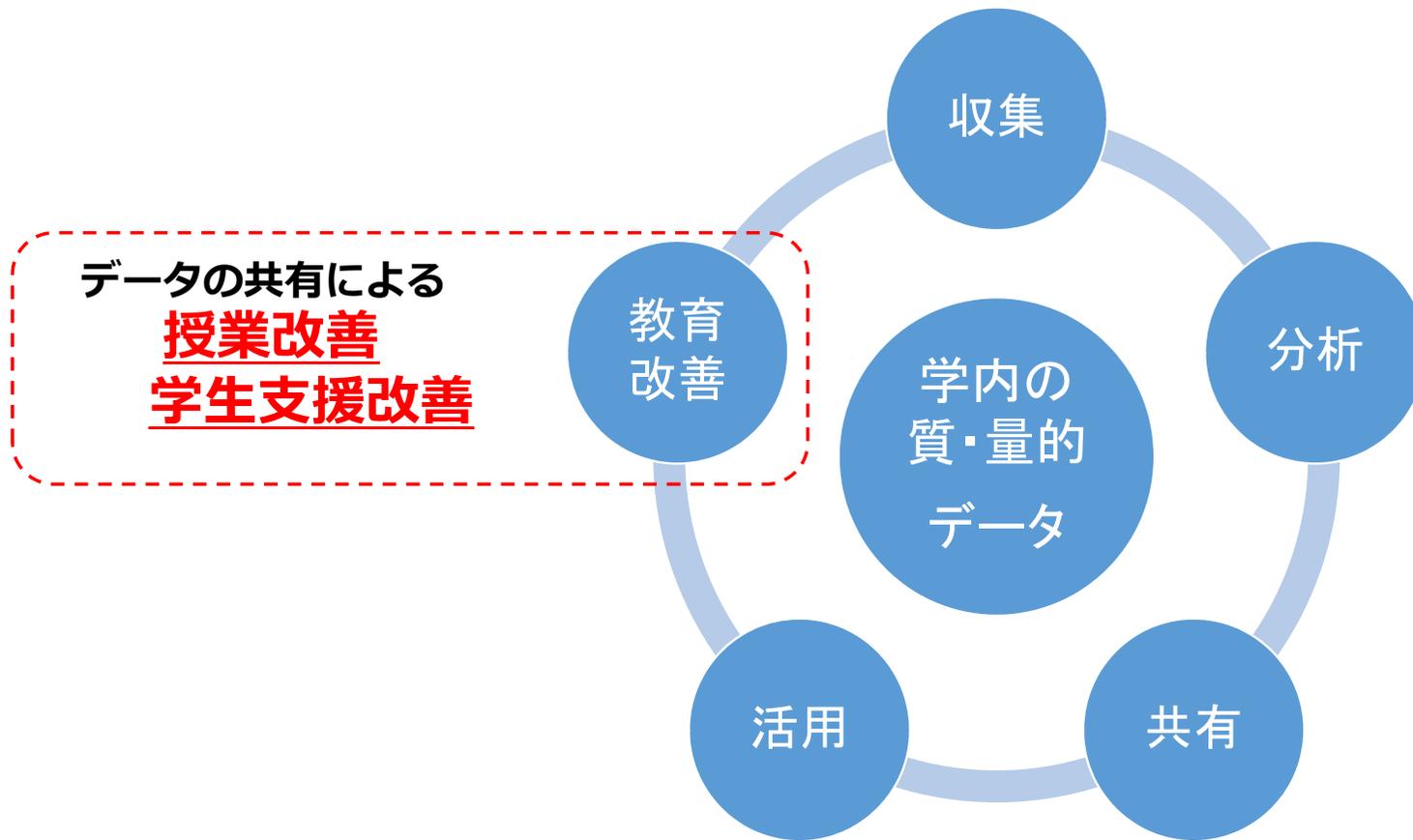
学部・学科単位の活動（オリエンテーションや合宿等）

新入生歓迎会のお手伝いスタッフ

ゼミの先生の研究のお手伝い（外部との関わり有）

学内には、どんなリソースがありますか？

データの活用とは？



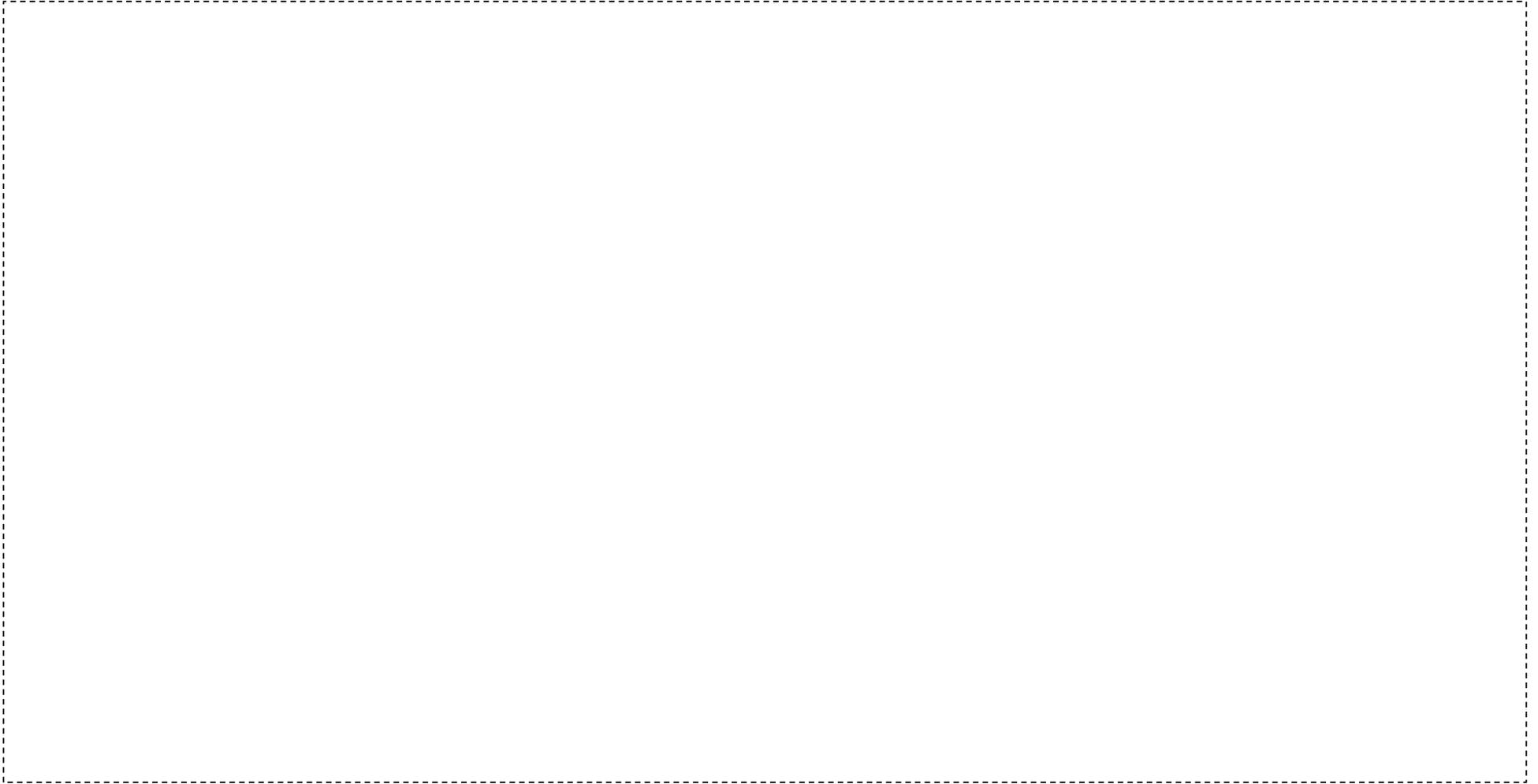
最近の傾向分析：仮説を持ち寄り検証する 「肌で感じている感覚」＝学生支援の勘を活用する

- 教員側からの気づき…授業時、成績状況から
 - 授業の様子、学生支援の必要性
 - 修学支援の必要性
 - 反社会行動や非社会行動の増加&減少
 - 進路支援からの気づき
- 事務側からの気づき…窓口対応からの気づき
 - 修学支援からの気づき
 - 最近、学内がきれいかも・・・
- 保健管理センターからの気づき
 - …保健管理センター利用の増加&減少

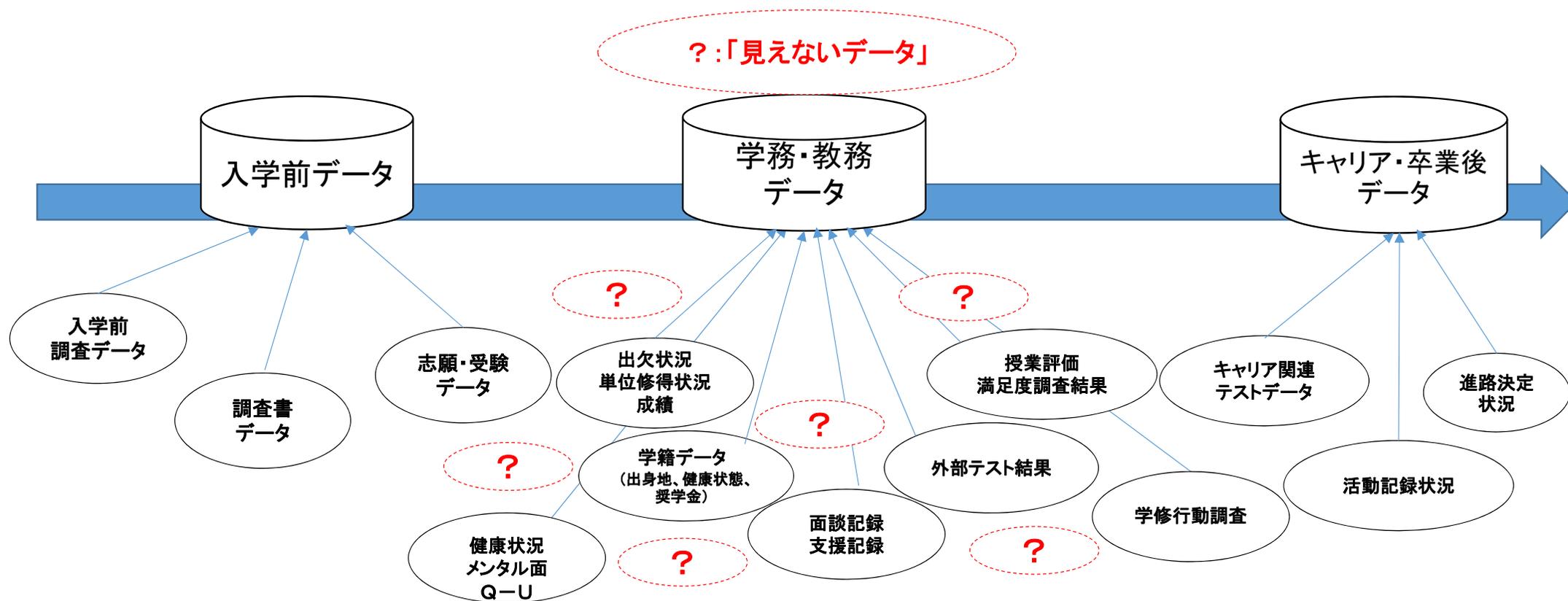
「今年の学生は・・・」
「今年の入学生は・・・」
「最近、なんか気になるなあ・・・」

日常の経験知から
仮説を設定し
検証してみませんか？

ワーク②



学内にある生徒・学生データ 存在が「見えるデータ」と「見えないデータ」



基準・比較データ: 経年(過去5ヶ年程度)データ
近隣地域・近隣高专との比較データ

仮説を持ち寄り検討する～担当しか気づかない視点の共有～

学生支援や学務・教務の
立場からの気づき

キャリアセンター・就職支援
の立場からの気づき

入試担当者の
立場からの気づき

保健管理センターの
立場からの気づき

学部教員の
立場からの気づき



**ビッグデータの中に
埋もれて見えないデータ**

就職活動の開始が
遅い学生の傾向に
何かしらの特徴がありそうだ
なあ



キャリアセンター職員

今年の○○学科の
入学生は
いままでと少し違う
なあ

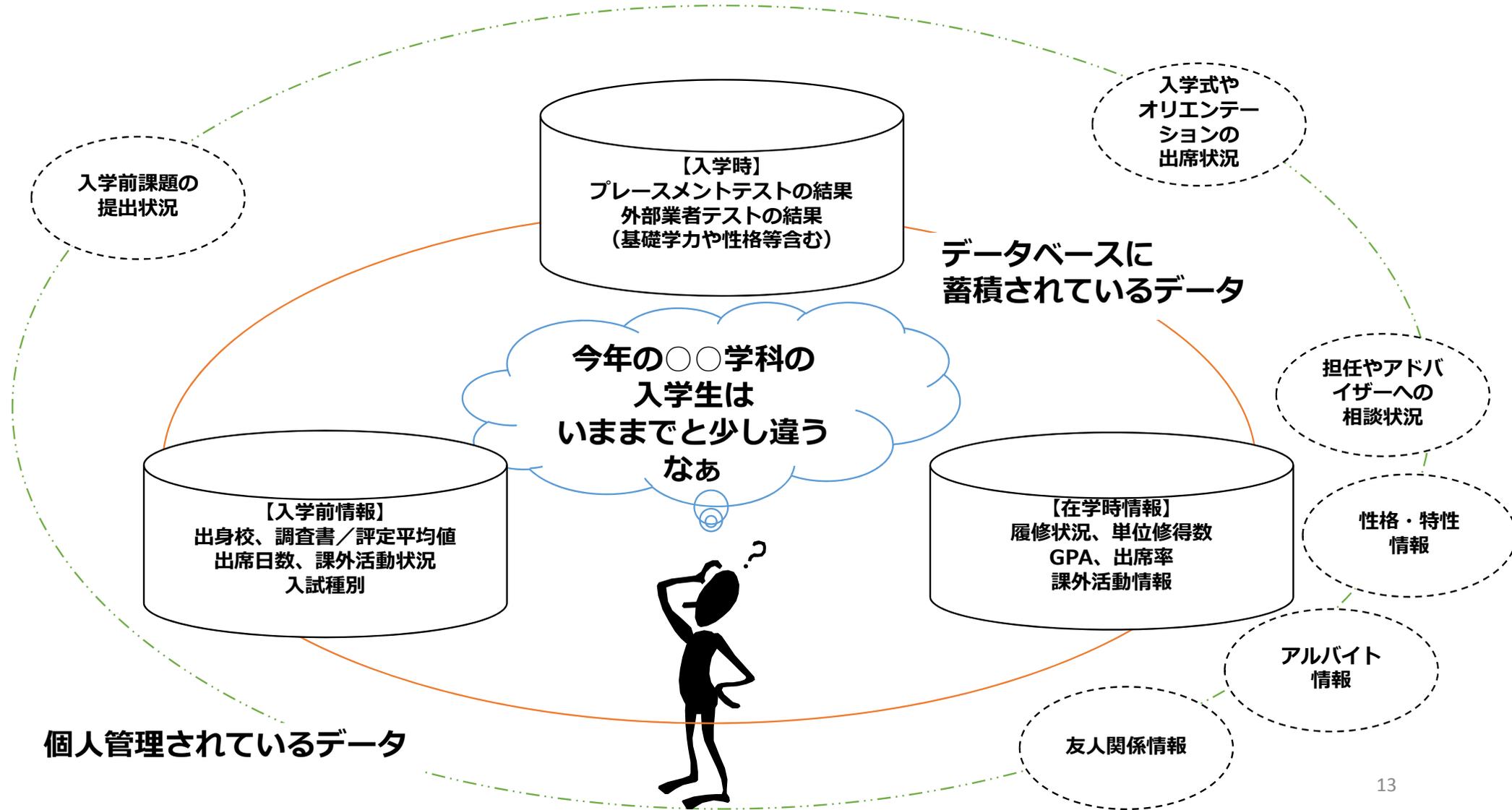
GPAが低い学生の傾向に
何かしらの特徴がありそ
うだなあ

○○学科の学生が
よく保健管理
センターを利用し
ているなあ

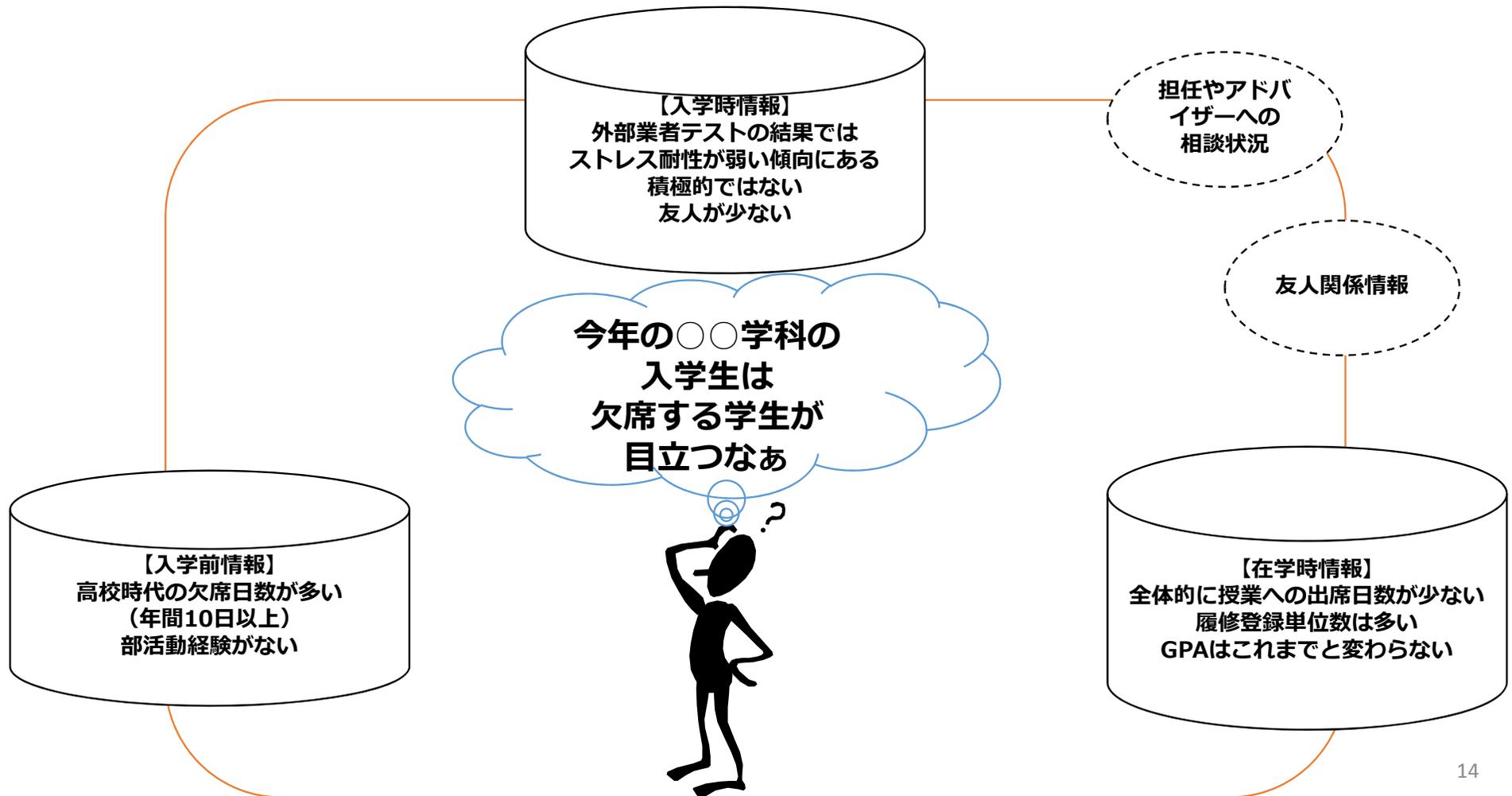


学務・教務関連職員

見えるデータと見えないデータ



予防的・開発的學生支援を行うために ○○学科の學生の特性を分析する



予防的・開発的學生支援に関わる学内データ

【入学時】

・入学時アンケート

志望順位、選択理由、進路選択の意思決定について
大学への期待度、大学に対するイメージ

・外部機関を利用した調査

基礎学力の測定

性格、ストレス耐性、学習意欲・不安、ソーシャルネットワーク

コミュニケーション能力

大学卒業後の進路希望

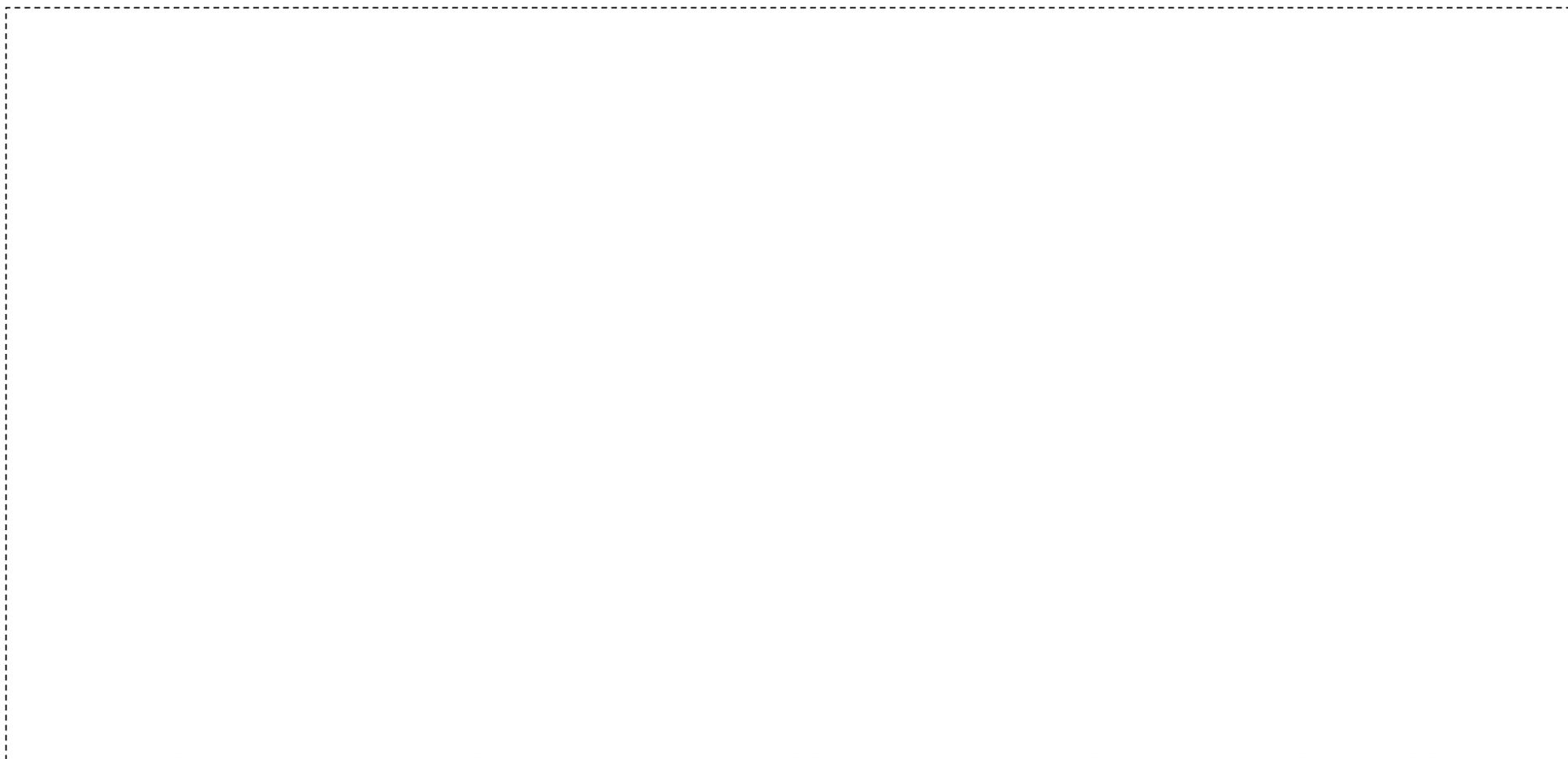
【在学中】

・学修行動調査（授業外学習時間、アルバイト状況等）

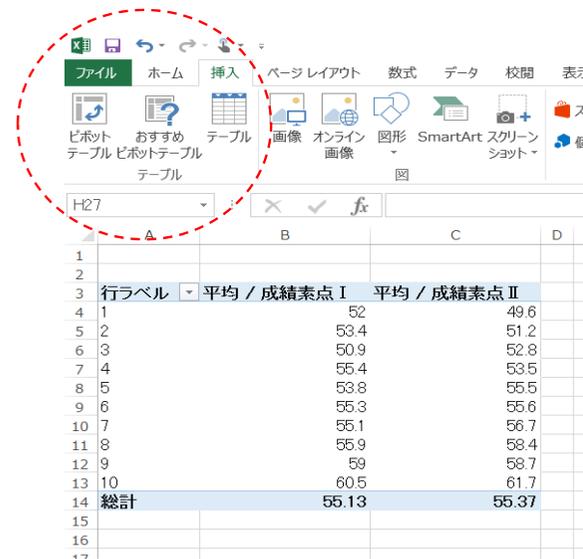
・大学の学びに関わる意識（満足度調査を含む）

- ・
- ・
- ・

ワーク②



教育改善に向けたデータ「見える化」ステップ



データ集約

学内にあるデータの一本化・一元管理

調査設計

学内の状況を定点観測する（経年変化を掴む）
課題解決に向けて仮説を立て、設計する

データ整理・構築

関連データ（量と質データ）の抽出とデータ構築

分析・検証

分析検証、基準との比較検証

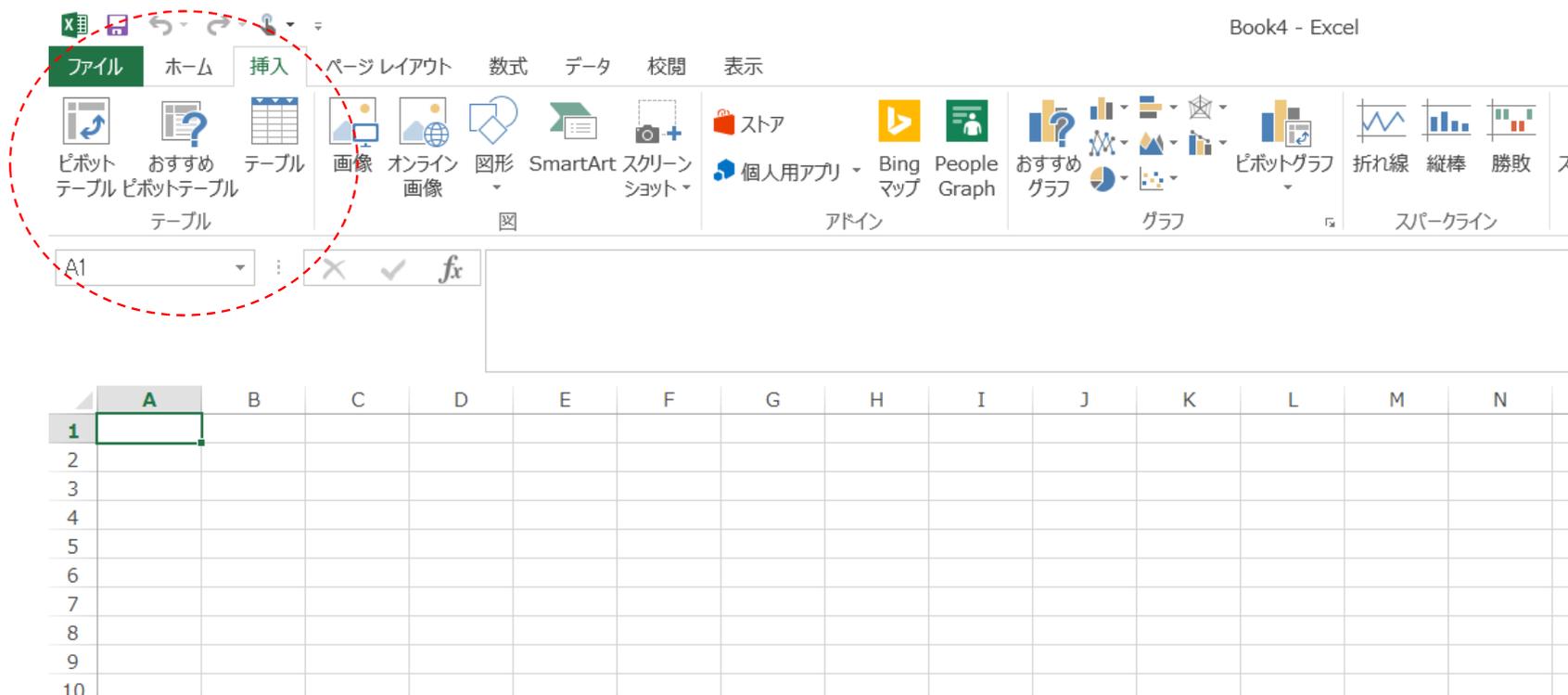
学内情報共有

情報共有「データの可視化」

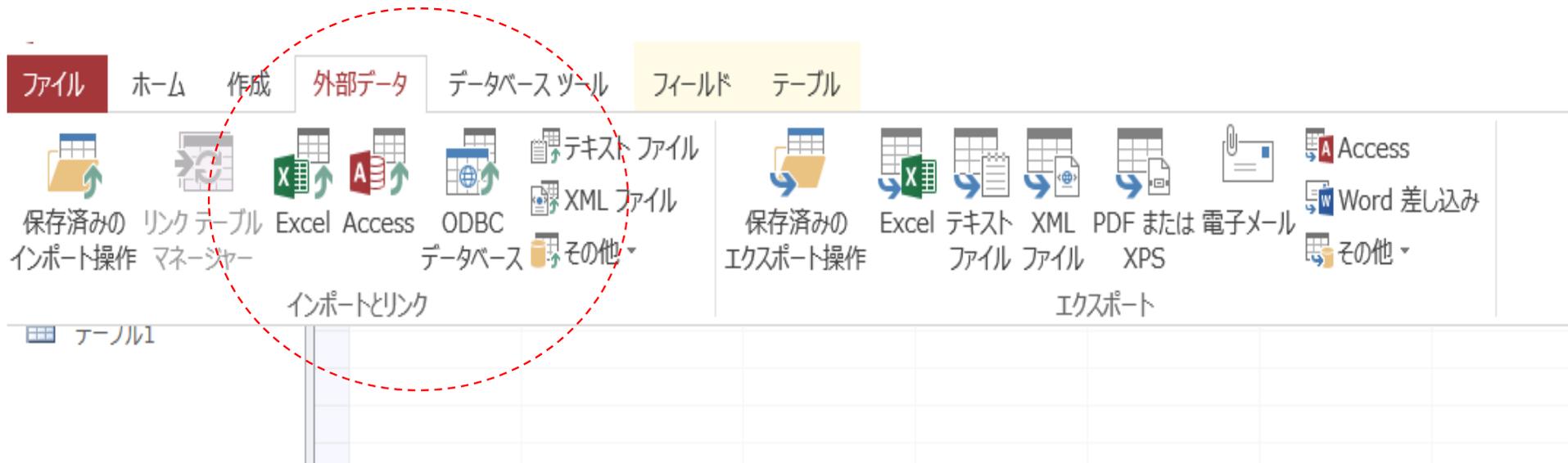
教育・支援改善



データの仮説検証に役立つツール エクセルのピボットテーブル



データのリンクングに役立つツール アクセスのクエリー機能



改善のためのリサーチクエスチョンの作り方

今年の〇〇学科の
入学生は
欠席する学生が
目立つなあ

0. 仮説を立てる
1. 課題の特定
2. 改善・開発に向けた
リサーチクエスチョンを考える



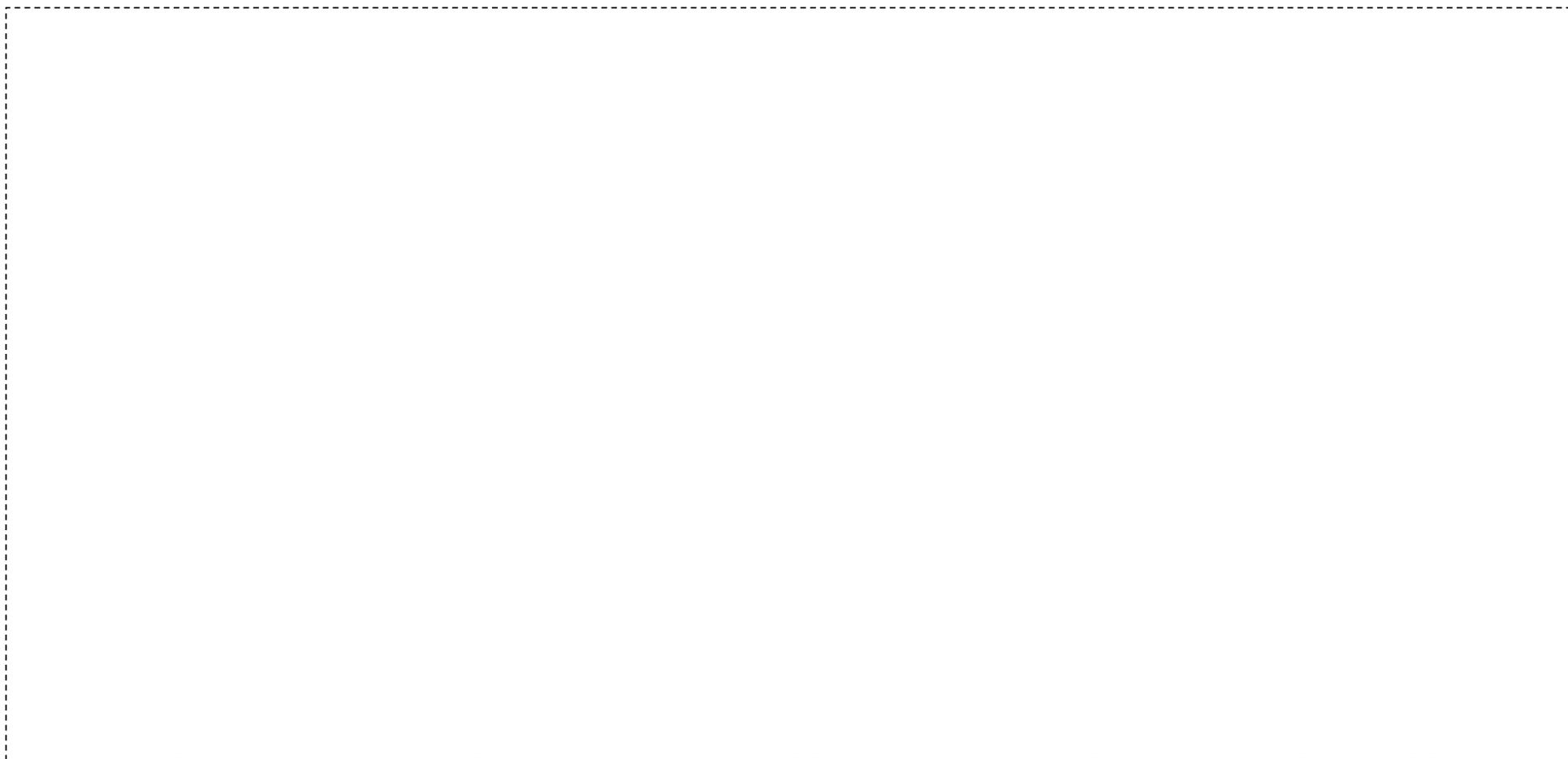
RQ⇔CQ : 日常生活の中の問いや疑問

CQをRQに作り変える作業

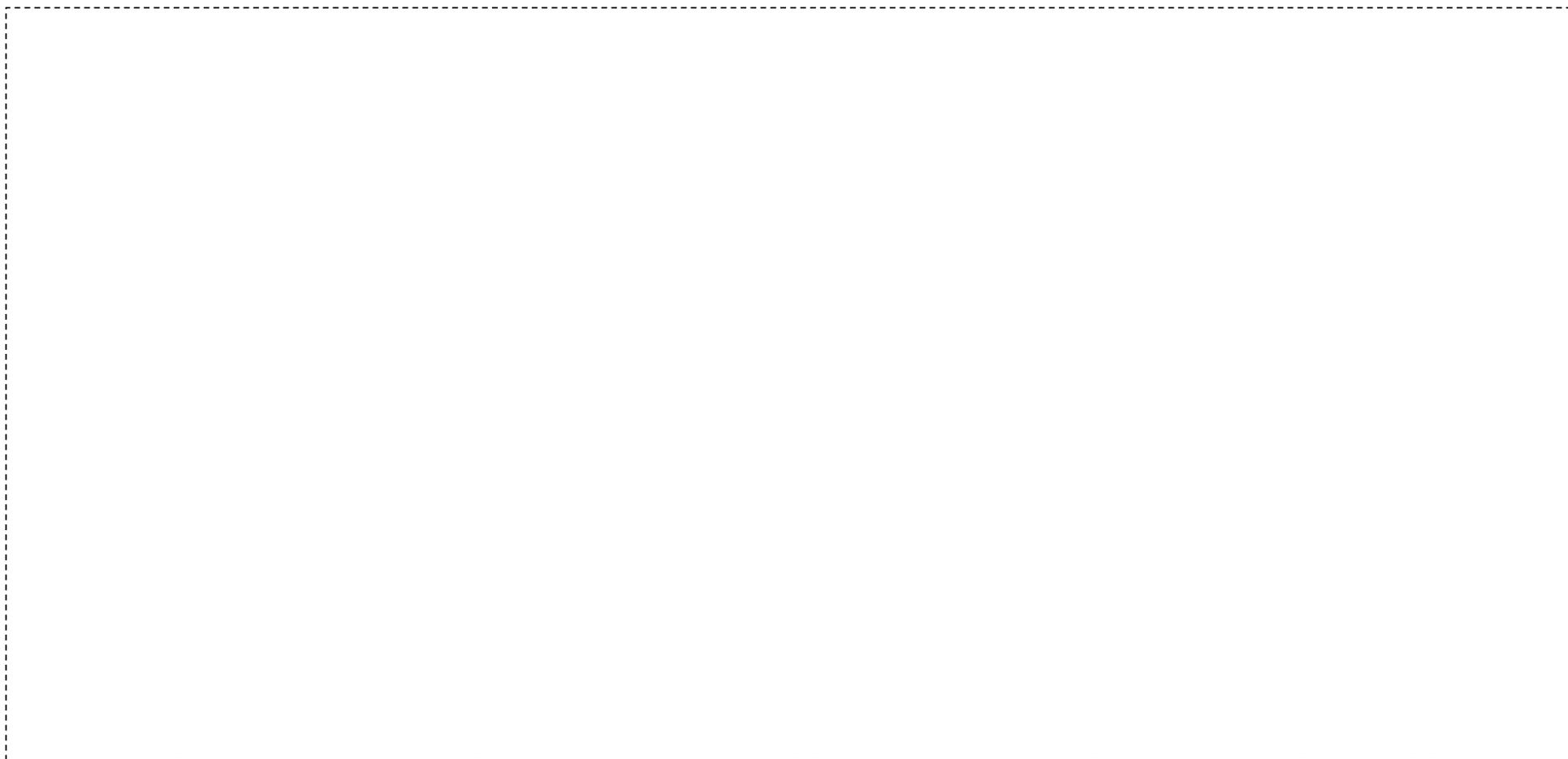
CQを肯定文に⇒?をつけて疑問文にする

(川那辺, 2015)

ワーク③



ワーク④



I R 担当者が心掛けるべき 7 つの方針（中井ほか, 2013）

1. 大学の目標に資する活動を進める
2. データを意味のある情報に変換する
3. データに基づく判断の有効性と限界を理解する
4. 客観性と中立性を重視する
5. 調査と公表においては倫理面に配慮する
6. 学内外の多様な関係者と連携を進める
7. 専門性を高める機会をつくる

データを取り扱う時の諸注意